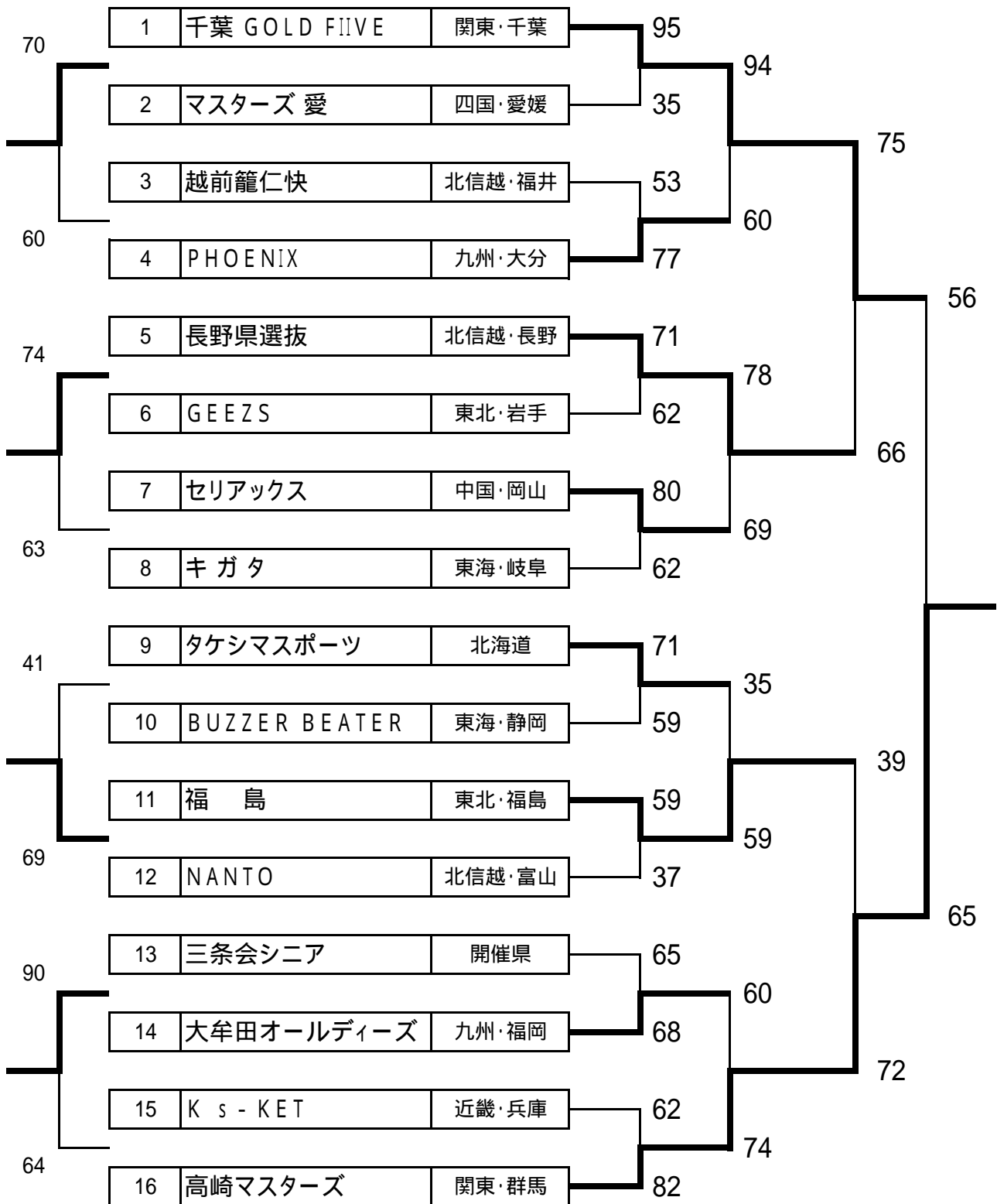


第3回全日本クラブシニアバスケットボール選手権大会

平成22年11月20日(土)・21日(日)
会 場:新潟市東総合スポーツセンター他



第3回全日本クラブシニアバスケットボール選手権大会

準決勝結果

千葉GOLD FIVE 75 $\left(\begin{array}{l} 21 - 11 \\ 16 - 20 \\ 24 - 14 \\ 14 - 21 \end{array} \right)$ 66 長野県選抜

テーブルスコア

A 千葉GOLD FIVE		得点	野投(本)		自由投 (本)	反則	B 長野県選抜		得点	野投(本)		自由投 (本)	反則
No	選手名		3点	2点			No	選手名		3点	2点		
	宮崎	3	1	0	0	3	4	小林	17	1	6	2	2
5	岡部	7	0	2	3	1		森角	7	1	2	0	3
	藤原	16	2	5	0	0	12	藤森	0	0	0	0	0
10	田畑	0	0	0	0	0		武田	20	4	4	0	4
	井上	18	4	3	0	0		寺島	3	0	1	1	1
	宮浦	13	0	4	5	2		鳥海	2	0	1	0	2
13	松本	4	0	2	0	1	23	古平	0	0	0	0	2
14	鈴木						32	山崎	2	0	1	0	0
15	十川						45	横沢	2	0	1	0	0
17	高田	2	0	1	0	0	47	鈴木	3	1	0	0	0
18	長嶋						48	柳沢	2	0	1	0	3
	山崎	10	0	4	2	3	54	新井					
21	櫻井						69	宮越					
22	山本	2	0	1	0	0	77	池内	8	2	1	0	1
39	小川												
合計		75	7	22	10	10	合計		66	9	18	3	18

戦評

1Q両チームともディフェンスはマンツーマンでスタート。千葉GOLD FIVE(以下千葉)は#11井上の連続3Pで先制する。対する長野県選抜(以下長野)は#13武田、#11森角のドライブインからのシュートで対抗する。その後、千葉は#12宮浦のゴール下シュート、#8藤原の連続3Pで得点を加点して、開始5分で19 - 4と千葉が15点リードする。長野はたまたまタイムアウトをとり、ディフェンスをゾーンに切り替えた。長野#13武田の3Pなどで追い上げ、21 - 11で1Qを終えた。

2Q長野は#13武田の3本の3Pや#11森角のドライブインからの合わせで追い上げるが、千葉は#11井上がドライブインからのシュートやオフェンスリバウンドからの得点などで対抗し、37 - 31と千葉が6点リードで前半を折り返した。

3Q両チームのディフェンスは、千葉マンツーマン、長野ゾーンで始まった。長野は#17鳥海、#13武田のドライブからのシュートで得点を加算していく。対する千葉はオフェンスリバウンドからの得点などで一進一退の攻防が続く。残り5分、長野は果敢にシュートにいくがリングに嫌われ、リバウンドを千葉に制される。千葉はリバウンドからの速攻や#11井上、#4宮崎の3Pなどの得点で点差を広げていき、61 - 45で3Qを終える。

4Q開始2分は両チームともにシュートが決まらない。長野は#11森角、#47鈴木の3P、#4小林のゴール下シュートで追い上げ、65 - 53となったところで千葉がタイムアウトをとる。千葉はオフェンスリバウンドからの得点で再度点差をひろげ、69 - 53となる。今度は長野がタイムアウトをとりディフェンスをマンツーマンに切り替え、勝負にでる。長野#77池内の連続3Pやオフェンスリバウンドからの得点で追い上げるが、75 - 66と千葉が逃げ切り、千葉が決勝進出を決めた。

(記載責任者： 土肥 伸行)

第3回全日本クラブシニアバスケットボール選手権大会 準決勝結果

福島 39 $\left(\begin{array}{l} 1 - 24 \\ 7 - 16 \\ 18 - 13 \\ 13 - 19 \end{array} \right)$ 72 高崎マスターズ

テーブルスコア

A 福島		得点	野投(本)		自由投 (本)	反則	B 高崎マスターズ		得点	野投(本)		自由投 (本)	反則
No	選手名		3点	2点			No	選手名		3点	2点		
4	富 樫						4	西 山	2	0	1	0	0
5	近 藤							武 井	14	0	7	0	3
6	橋本(賢)	2	0	1	0	2	6	生 方	0	0	0	0	1
7	蛭 田						7	八 木					
8	吉 江						8	坂 東	2	0	1	0	3
10	小 林						9	高 橋	0	0	0	0	1
	皆 原	10	2	2	0	0		根 岸	8	0	4	0	0
12	山 田	0	0	0	0	0		石 原	15	1	6	0	1
	川 前	1	0	0	1	0	12	松 川	4	0	2	0	1
14	鈴 木							堀 田	9	3	0	0	0
	堀 田	12	0	5	2	2	14	大 山	2	0	1	0	2
	秋 山	11	0	5	1	0		相 澤	11	0	5	1	3
	橋本(昌)	3	0	1	1	1	16	久 坂	0	0	0	0	0
							17	青 柳					
							18	桑 原	0	0	0	0	0
							19	前 田	5	0	2	1	2
合 計		39	2	14	5	5	合 計		72	4	29	2	17

戦 評

1Q、福島はゾーンディフェンス、高崎マスターズ(以下高崎)はマンツーマンディフェンスでスタート。先取点は高崎#11石原が奪う。その後も#5武井のリバウンドシュートや#15相澤のインサイドで得点するなど高さで勝る高崎は確実に得点を重ねる。一方福島は#13川前がゴール下でファールを誘いフリースローで得点するが高崎の厚いディフェンスに苦しみ、シュートを打てず、得点が伸びない。開始3分で1-9、高崎がリードする。その後も高崎は早い展開から#11石原などがリズムよくシュートを放ち、1Qは1-24、高崎が大量リードで終える。

2Q、福島は#17秋山が果敢に1対1を仕掛け得点するが、高崎は1Qと同様に早い展開から得点を重ねる。#10根岸、#19前田らが攻守ともにリバウンドを制し、8-40、高崎の32点リードで前半を終える。

3Q、前半、福島は#17秋山のミドルシュートなどで得点するが、高崎の得点も止まらず、開始4分で12-51と高崎にリードを広げられてしまう。しかしここから福島は#11皆原#17秋山#15堀田が積極的にシュートを放ち得点を重ねる。流れに乗った福島はディフェンスでもプレッシャーを強め、高崎のミスを誘う。結局3Qは26-53と、福島が差を縮め、意地をみせた。

4Q、序盤、高崎は#13堀田の3Pや、速攻から#15相澤#11石原が得点するなど流れを掴む。対する福島は高崎の厳しいディフェンスを前に3分間得点できない。その後福島は#15堀田の速攻や#18橋本の1対1で加点するが、高崎#4西山がブザービーターで得点し、ゲームセット。39-72と、高さで早さで勝る高崎が危なげなく勝利を収めた。

(記載責任者: 森山 勇也)

第3回全日本クラブシニアバスケットボール選手権大会

決勝結果

千葉GOLD FIVE 56 $\left(\begin{array}{l} 18 - 15 \\ 15 - 21 \\ 9 - 18 \\ 14 - 11 \end{array} \right)$ 65 高崎マスターズ

テーブルスコア

A 千葉GOLD FIVE					B 高崎マスターズ								
No	選手名	得点	野投(本)		自由投(本)	反則	No	選手名	得点	野投(本)		自由投(本)	反則
			3点	2点						3点	2点		
	宮崎	5	1	1	0	2	4	西山	2	0	1	0	4
5	岡部	2	0	1	0	2		武井	1	0	0	1	1
	藤原	16	4	2	0	2	6	生方					
10	田畑						7	八木					
	井上	16	2	4	2	1	8	坂東	0	0	0	0	0
	宮浦	13	0	4	5	5	9	高橋					
13	松本	3	0	1	1	1		根岸	22	0	8	6	2
14	鈴木							石原	14	2	3	2	3
15	十川						12	松川					
17	高田							堀田	5	1	1	0	1
18	長嶋						14	大山					
	山崎	1	0	0	1	1		相澤	10	0	5	0	3
21	櫻井						16	久坂					
22	山本	0	0	0	0	0	17	青柳	11	3	1	0	3
39	小川						18	桑原					
							19	前田	0	0	0	0	2
合計		56	7	13	9	14	合計		65	6	19	9	19

戦評

全日本クラブシニアの決勝は、千葉GOLD FIVE(以下、千葉)と高崎マスターズ(以下、高崎)の対戦となった。

1Q、両チームともにハーフマンツーマンディフェンスでスタート。千葉がボールを激しく動かし、外からのシュートを狙えば、高崎はインサイドを積極的に攻める。先に流れをつかんだのは高崎。#11石原のドライブシュートや#10根岸のカットインなどで一時は2 - 12とリードする。対する千葉は#8藤原や#4宮崎の3Pシュートで反撃、すぐに追いつく。その後は一進一退の展開となる。このクォーターは18 - 15と千葉が3点リードで終了した。

2Qに入ると、高崎の#10根岸がドライブシュートや速攻を鮮やかに決め、一気に逆転する。対する千葉は#11井上のカットインシュートや3Pシュートで対抗し、残り3分で31 - 31と追いつくが、肝心なところでフリーのシュートがリングに嫌われ、得点が伸びない。終了間際、高崎の#11石原に3Pシュートを決められ、33 - 36とされ前半終了。

3Q開始早々、高崎は#17青柳の3Pシュートや#10根岸の連続得点で、34 - 43と一気にリードを広げる。対する千葉は#8藤原が3Pシュートを決めるがその後得点が伸びず、逆に高崎に立て続けに速攻を決められてしまう。これ以上離されたくない千葉は激しいディフェンスで流れを取り戻そうとする。終了間際に千葉の#12宮浦がゴール下のシュートを決め、42 - 54として勝負は最終クォーターへ。

4Q、千葉は#11井上の3Pシュートが成功。続けて#4宮崎がスティールからの速攻を決め、じりじりと追い上げにかかる。残り7分で#11井上がドライブから連続得点を決め、53 - 56と3点差まで得点を詰める。しかし高崎は#15相澤がゴール下で踏ん張りシュートをねじ込む。53 - 58とされたところでたまたま千葉はタイムアウトを取る。ここで高崎はファールトラブルで休んでいた#4西山を投入。インサイドを固めて逃げ切りにかかる。残り3分で高崎は#17青柳の3Pシュートやステップインシュートが成功。粘る千葉を振り切り、56 - 65として初優勝を飾った。

(記載責任者: 小田 直人)

第3回全日本クラブスーパーシニアバスケットボール交歓大会

平成22年11月20日(土)・21日(日)
会 場:新潟市東総合スポーツセンター付

Aブロック

		1	2	3	順位
1	那珂川クラブ	九州・福岡	75 - 44	60 - 66	2
2	彩籠クラブ	北信越・石川	44 - 75	38 - 51	3
3	旭川ドランカーズ	北海道	66 - 60	51 - 38	1

Aブロック1位:旭川ドランカーズ

Bブロック

		4	5	6	順位
4	茨城シニアスピリッツ	関東・茨城	58 - 25	22 - 64	2
5	岩手スーパーマスターズ	東北・岩手	25 - 58	23 - 64	3
6	シニアギャロップス	近畿・兵庫	64 - 22	64 - 23	1

Bブロック1位:シニアギャロップス

Cブロック

		7	8	9	順位
7	福 島	東北・福島	44 - 66	41 - 62	3
8	にいがた	開催県	66 - 44	78 - 49	1
9	OKAYAMA CELIACS	中国・岡山	62 - 41	49 - 78	2

Cブロック1位:にいがた

Dブロック

		10	11	12	順位
10	ヤマト	関東・神奈川	46 - 63	56 - 59	3
11	伊豆の国市体協田方クラブ	東海・静岡	63 - 46	75 - 55	1
12	愛媛スーパーシニア	四国・愛媛	59 - 56	55 - 75	2

Dブロック1位:伊豆の国市体協田方クラブ

41

48

58

68

55

55

第3回全日本クラブスーパーシニアバスケットボール交歓大会

準決勝結果

旭川ドラゴンズ 41 $\left(\begin{matrix} 13 & - & 13 \\ 9 & - & 11 \\ 8 & - & 17 \\ 11 & - & 17 \end{matrix} \right)$ 58 シニアギャロップス

テーブルスコア

A 旭川ドラゴンズ					B シニアギャロップス								
No	選手名	得点	野投(本)		自由投(本)	反則	No	選手名	得点	野投(本)		自由投(本)	反則
			3点	2点						3点	2点		
4	山岸(聡)						和田	5	1	0	2	3	
	小林	5	1	1	0	3	林						
	伊藤	0	0	0	0	5	榊原	1	0	0	1	3	
	佐藤	8	0	4	0	0	久高						
8	山岸(洋)						小栗	18	0	8	2	1	
9	和瀬						原田						
10	西村						岩井	4	0	1	2	0	
11	真鍋						原田	23	7	0	2	1	
12	梅本	4	0	2	0	3	②金丸	3	1	0	0	1	
	田上	6	0	3	0	5	23澤地						
14	山崎	0	0	0	0	0	27小西						
15	吉田	3	1	0	0	0	44宮武						
16	塚田						⑦⑦川口	4	0	1	2	0	
18	野呂田	2	0	1	0	2	88山口						
	畑	13	0	4	5	2							
合計		41	2	15	5	20	合計	58	9	10	11	9	

戦評

Aブロック1位の旭川ドラゴンズ(以下旭川)とBブロック1位のシニアギャロップス(以下ギャロップス)の対戦。1Q、旭川は2-1-2ゾーン、ギャロップスはマンツーマンディフェンスでスタート。立ち上がり、高さに勝る旭川は、#5小林、#19畑のドライブやインサイドプレーを中心に加点してく。対するギャロップスはファールが多く、相手にフリースローを与えてしまう。序盤、ギャロップスは旭川のゾーンを崩せず、アウトサイドシュートを放つが、入らない。その後、#21金丸の3Pシュートをきっかけに流れをつかみ、#10小栗のドライブ等で追いつき、13-13の同点で1Q終了。2Q、旭川は#12梅本のゴール下、#13田上のドライブ等で加点、ディフェンスが縮まっているところに#15吉田の3Pシュートが決まる。ギャロップスはシュートを放つも入らない状態が続くが、残り2分に#17原田の3Pシュートが決まると、#10小栗のカッティング等で連続得点、24-22と逆転し、2Q終了。3Q、波に乗るギャロップスは#17原田がカッティングで得点。旭川も#13田上のゴール下で応戦するが、運動量の落ちないギャロップスは#10小栗、#17原田が連続得点する。疲れの見える旭川はシュートを決めきれず、差が広がる。ギャロップスが41-30の11点差とし、3Q終了。4Q、お互いにシュートを決めきれず、膠着状態となる。旭川はディフェンスをマンツーマンにチェンジして追い上げを図るが、ギャロップスは#17原田の3Pシュート、#10小栗のドライブ等で落ち着いて加点。旭川はディフェンスをオールコートにするも、差を詰める事はできず、58-41でギャロップスが勝利した。

(記載責任者: 中島 学)

第3回全日本クラブスーパーシニアバスケットボール交歓大会

準決勝結果

にいがた 68 $\left(\begin{matrix} 17 & - & 17 \\ 17 & - & 15 \\ 20 & - & 10 \\ 14 & - & 13 \end{matrix} \right)$ 55 伊豆の国市体協田方クラブ

テーブルスコア

A にいがた					B 伊豆の国市体協田方クラブ								
No	選手名	得点	野投(本)		自由投(本)	反則	No	選手名	得点	野投(本)		自由投(本)	反則
			3点	2点						3点	2点		
	小野	7	0	2	3	2	4	杉本	2	0	1	0	0
	角田	6	2	0	0	3		内田	4	0	1	2	4
6	青木						7	鈴木					
	長谷川	24	0	11	2	2	8	吉村	5	0	2	1	2
	鈴木(厚)	4	0	2	0	1	10	村上	0	0	0	0	0
9	笠原	1	0	0	1	0		柳澤	12	0	5	2	4
10	若月	0	0	0	0	0		白井	16	4	2	0	3
11	神保	5	0	2	1	0	14	杉田					
	伊藤	21	0	9	3	2		中村	8	0	3	2	2
13	浅野							森田	8	0	4	0	4
14	鈴木(和)	0	0	0	0	0							
合計		68	2	26	10	10	合計		55	4	18	7	19

戦評

1Q、両チームともディフェンスは2:3ゾーンからスタートさせる。にいがたはゴール下の空いたスペースを上手く攻め、#12伊藤のゴール下付近のシュートで連続して得点を重ねていく。伊豆の国市体協田方クラブ(以下伊豆)は早いパス回しからアウトサイドや、ドライブの合わせを使い、#13白井の3Pや、#16森田のレイアップシュートなどで得点する。この後はお互いに点数を取り合い、17 - 17で終了する。

2Q、にいがたはインサイドを中心に伊豆のゾーンディフェンスを攻め続ける。高さがあるにいがたはリバウンドを制し、#12伊藤のリバウンドシュートで点差を広げる。伊豆は序盤からファールを連発し上手くリズムを作ることができなかったが、#16森田のドライブからのシュートが決まったのをきっかけに、#13白井の速攻からのレイアップシュート、3Pと連続で得点し流れを掴んで点差を詰め、にいがたが34 - 32、2点リードで終了する。

3Q、流れを掴みかけた伊豆だが、2Qと同様に序盤からファールを重ねてしまう。にいがたはインサイドとアウトサイドを上手く使い、伊豆のゾーンディフェンスを攻め、#7長谷川のゴール下のシュート、バスケットカウントなどで勢いに乗る。高さに勝るにいがたは落ちたシュートを#7長谷川がリバウンドシュートを確実に決め、さらに点差を広げていく。伊豆はシュートまでいくものの、なかなか得点することができず、3Qは54 - 42で、にいがたが点差を広げて終了する。

4Q、にいがたは#7長谷川の3連続シュートでさらに勢いづく。4分、伊豆はタイムアウトを取り、その後、ディフェンスでプレッシャーをかけ、相手のミスを誘い、#11柳澤、#16森田がスティールからの速攻で得点する。伊豆は終盤、オールコートマンツーマンにディフェンスを変え、プレッシャーをかけるが、落ち着いてプレーをするにいがたに追いつくことはできず、68 - 55でにいがたが勝利した。

(記載責任者 : 難波 孝芳)

第3回全日本クラブスーパーシニアバスケットボール交歓大会

決勝結果

シニアギャロップス 48 $\left(\begin{array}{l} 12 - 14 \\ 13 - 18 \\ 10 - 11 \\ 13 - 12 \end{array} \right)$ 55 にいがた

テーブルスコア

A シニアギャロップス		得点	野投(本)		自由投(本)	反則	B にいがた		得点	野投(本)		自由投(本)	反則
No	選手名		3点	2点			No	選手名		3点	2点		
	和田	4	0	2	0	2	小野	6	0	2	2	2	
4	林						角田	6	2	0	0	3	
6	榊原	4	0	1	2	0	青木						
7	久高	2	0	1	0	0	長谷川	26	0	9	8	2	
10	小栗	5	0	1	3	5	鈴木(厚)	7	0	3	1	2	
11	原田(俊)						9 笠原	0	0	0	0	1	
	岩井	11	0	5	1	4	10 若月	0	0	0	0	0	
	原田(靖)	12	4	0	0	4	11 神保	2	0	1	0	2	
②1	金丸	8	0	4	0	4	伊藤	8	0	4	0	1	
23	澤地						13 浅野						
27	小西						14 鈴木(和)						
44	宮武												
⑦7	川口	2	0	1	0	1							
88	山口												
合計		48	4	15	6	20	合計	55	2	19	11	13	

戦評

決勝は、大阪のシニアギャロップス(以下ギャロップス)と開催県のにいがたとの対戦となった。

1Q、ディフェンスはギャロップスがマンツーマン、にいがたが2-1-2ゾーン。序盤、ギャロップスは#17原田の3Pシュートで先制、#3和田のドライブで立て続けに得点し勢いに乗る。しかし、高さで勝るにいがたは焦らず#7長谷川、#12伊藤のポストを起点に攻撃を組み立て、徐々にペースを掴み逆転。12-14、にいがたリードで1Q終了。

2Q、にいがたは#7長谷川がインサイドから、#5角田がアウトサイドからと、バランスよく攻撃し得点を伸ばすと、10点差まで得点を広げる。落ち着きたいギャロップスは開始4分タイムアウトを請求。その後、#21金丸がドライブやミドルシュート、#10小栗の速攻などで7点差まで縮め、25-32で前半を折り返す。

3Q、にいがたは#7長谷川がローポストからのフックシュートで連続得点。また、#12伊藤のハイポストを起点にパスがよく回り、12点差まで得点を伸ばす。ギャロップスは積極的にシュートを狙うもリングに嫌われ、リバウンドもなかなか取れずペースが掴めない。しかし終盤、足を動かし続けるギャロップスは、早い展開から#6榊原や#15岩井が連続得点し意地を見せる。35-43にいがた8点リードで3Q終了。

4Q、リバウンドを制するにいがたが#7長谷川を中心に連続加点。開始4分、点差が14点に開いた時点でギャロップスはタイムアウトを請求。その後、ディフェンスの当たりを強め、にいがたのミスを誘う。また、早いパス回しから連続得点し勢いに乗り、残り3分、#10小栗がフリースローをきっちり2本決めた時点で5点差。しかし、にいがたは最後まで気を抜かずパスを回し、リードを守ったままタイムアップ。48-55でにいがたが勝利し優勝を飾った。

(記載責任者： 泉田 亮)